

10月11日のウクライナ情報

安齋育郎

●キエフにミサイル攻撃(2022年10月10日)

キエフにミサイル攻撃、リヴィウでも爆発。ミサイルの1つはゼレンスキーの事務所近くに落ちた。ウクライナメディアはミサイルが国内各地に飛来していると報道、警報が鳴り響き、市民は地下に避難。BBCの中継中にも落ちた模様。

ロシアの報復がついに始まったか？

https://twitter.com/Tamama0306/status/1579366932750700544?t=sfZyZCUzQOpbYkKFe_uu4w&s=09



ミサイル攻撃か？と気にするニュース・キャスター

次の映像も関連映像です。

<https://twitter.com/Tamama0306/status/1579367635133030402?t=Ppzy6Xzbd1YLdtmsulQAPQ&s=09>



●何とでも言えるものだなあ(2022年10月9日)

クリミア大橋爆破について、ウクライナは、ロシアの機関が偽旗攻撃を行なったか、治安機関同士の対立が原因だと主張している…。

<https://twitter.com/morpheus7701/status/1579027974929936384?t=jV3o8SDkoV T8m7U1hjGbA&s=09>



●クリミア大橋爆破の影響(2022年10月9日)

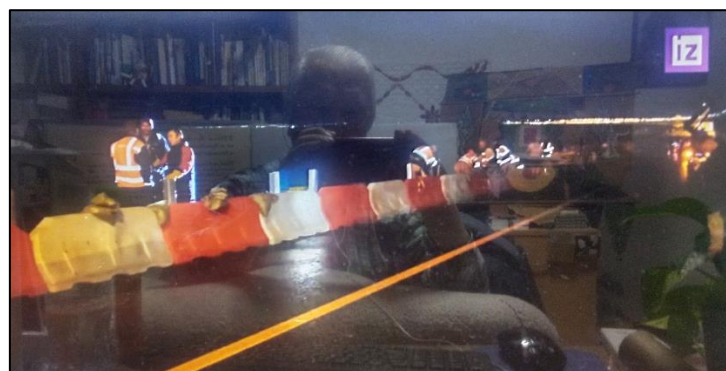
クリミア大橋の爆破のため、クリミアへのフェリーが出航するケルチ海峡のクラスノダール側のカフカス港のアプローチに約 200 台の車の列ができています。旅客バスが一番最初に積み込まれます。駐車場から直接行き行列を迂回して港の税関のセキュリティゾーンに入り、そこで積み込み開始を待ちます。



●クリミア大橋修復工事の最終段階(2022年10月9日)

<https://twitter.com/morpheus7701/status/1579218937912635393?s=20&t=l8VxDC 61n9ga0yCxwaCrg>

最終段階に入ったクリミア大橋修復工事



●イギリス労働党がリス・トラス首相を詰問(2022年10月9日)

労働党はリス・トラスの公的資金の無駄遣いと非論理的なエネルギー政策を非難した。

首相が下した決断の為に普通の人々が基本的な生命維持の為に多くの支出を強いられていると議員は述べた。(日本語字幕なし)

<https://twitter.com/morpheus7701/status/1573077724637564928?t=ZJ8fAr3lmfHGZhkzYTGeg&s=09>



●ケルソンの攻防(2022年10月9日)

ロシア連合軍がケルソン方面の防御を固めたため、ウクライナ軍は5日間何もできていないようだ。
<https://twitter.com/Tamama0306/status/1579076708938186754?s=20&t=l8VxDC61n9ga0yCxwaCrg>



●ジンバブエの立場(2022年10月9日)

ジンバブエは、DNR、LNR、ヘルソン、ザポリージャ地方での住民投票の後もモスクワの味方であり続けるだろうと共和国国民議会のヤコブ・ムデンダ議長は語った。



●ゼレンスキーのとんでもない発言に対する反応(2022年10月9日)

ゼレンスキーはここ数日、一度にいくつものとんでもない発言をしている。

まず、彼は NATO への加盟を加速するための申請書に署名したが、これは同盟国自身が予想していなかったことで、すぐにキエフは特別な方法で同盟に入ることはできないと強調した。

そしてウクライナの大統領は、予防的措置としてロシアに対する核攻撃の必要性を説いた。

しばらくして、彼の広報担当者が釈明することになった。

このような情けない、軽率な言葉に対して、欧米では極めて否定的な評価が下されたことが、このような性急な反応につながったのだらうと思われる。

この提案に対する欧米とロシアの反応について詳しくお伝えする。



ゼレンスキー氏の言葉

ウクライナ大統領は、オーストラリアのローウィー研究所でビデオ接続により講演し、NATO はロシアの核兵器使用を排除すべきであり、それには予防攻撃が必要であると述べた。

「NATO はどうすべきか？ロシアが核兵器を使用する可能性を排除する...。予防攻撃で、使ったらどうなるかを知ってもらう。その圧力の使い方を再考する。これこそ NATO がすべきことである」

数時間後、ゼレンスキー氏の報道官は、急いでその意味を説明しなければならなかった。

ウクライナ大統領報道部は、ロシアに対する核攻撃の必要性に言及したものではありませんことを明らかにした。

「大統領が言っていたのは、2月24日までの期間です。ロシアが戦争を起こさないように、その時に予防策を講じるべきだったのだ」

セルゲイ報道官は、「当時話題になったのは、予防的制裁措置だけだったことを思い出してほしい」と明言した。

欧米はどう対応したのか

明らかに、米国のパートナーは、民主主義思想の支持者として描かれている人物からこのような発言をされるとは思っていなかった。

例えば、国連では、核兵器を使用すること自体を厳しく批判している。

「核兵器の使用に関するコメントについては、この問題に関して事務総長がすでに述べていることを参照されたい」

国連事務総長のステファン・デュジャリック報道官は、「彼の立場に変わりはない」と述べた。

このような発言は受け入れられないという意味だ。

米国の元諜報員スコット・リッター氏はイズバスチヤ紙とのインタビューで、ウクライナの指導者のふざけた行動を「助けを求める叫び」と表現した。

ゼレンスキーの言葉は、自分の勝負が終わったと理解した男の言葉だと考えるべきだろう。これは誰も気づかないし、欧米も応じない叫びだと諜報員は考えている。

ゼレンスキーは、ドイツでも非難された。

ドイツのシュルツ首相は核兵器の使用に反対していると、ドイツ副報道官のウォルフガング氏がUrduPoint 新聞に語った。

ドイツ政府、ゼレンスキー氏の発言について

首相は核兵器の使用に反対。ベルリン(UrduPoint News / Sputnik - 2022年10月7日)

ドイツのシュルツ首相は核兵器の使用に反対していると、ドイツ政府報道官のウォルフガング氏が金曜日に述べた。

NATO のロシアに対する「先制攻撃」についてのウクライナのゼレンスキー大統領の発言に対するコメントである。

ゼレンスキーは、オーストラリアのローウィー研究所でビデオ接続により講演し、NATO はロシアの攻撃を「待つ」のではなく、ロシアに対して「先制攻撃」を行うべきだと述べた。

この発言について、クレムリンのパスコフ報道官はスプートニクに対し、これは世界大戦を起こそうという訴えにほかならないと述べた。

ブフナー氏は記者団に対し、「首相は核兵器の使用に明確に反対している」と述べた。

欧州の政治家やメディアの極めて慎重な反応を見ると、ゼレンスキーの言葉を忘れようとしているように思える。ワシントンやブリュッセルの政府関係者は、何も特別なことが起こっていないように装おうとしている。

ロシアはどう反応したのか？

一方、ロシアはこのような事態を放置できないとしている。

特にアメリカ、イギリス、EU 諸国はゼレンスキー氏のこの発言に注意を払うべきだとパスコフ氏は述べ、これらは第三次世界大戦の呼びかけと評価される可能性があるかと付け加えた。

しかし、政治アナリストは、ゼレンスキーの発言は、世界の誰からも相手にされないだろうと考えている。

パスコフは、米国、EU、英国は、これらのふざけた行動を無視すべきではないと考えている。

どう見ても、ウクライナの指導者は、常にふっかけ続ければ、少なくとも表明された政治目標の一部を達成することが可能だと思込んでいるように見える。

この場合、キエフが西側諸国から肯定的な反応を得られるとは到底思えない。

もちろん、誰も核戦争を始めたいとは思わないし、ロシアと通常戦争を始めたいとも思わない。

予防核攻撃は、米国やその他の核兵器を保有する西側諸国の軍事ドクトリンに規定されていないものだからだ。

ロシア外交評議会のアンドレイ事務局長は、「だから、この提案は真剣に検討されることもないだろう」と述べた。

●チェチェンのカディロフ首長(2022年10月9日)

チェチェン共和国、カディロフ首長「ロシア軍にさらに7万人の兵士を動員する準備ができている」
<https://twitter.com/Tamama0306/status/1579089952411123712?s=20&t=l8VxDC61n9ga0yCxwaCrg>



●アメリカの政治学者デイヴ・ポールの分析(2022年10月9日)

<https://odysee.com/@Jano:7/Joe:42>

安齋注:画像下の「ジョー・ローガンのポッドキャストでスミスさんが混乱しています」という説明が不明。



●田中宇「潰されていくドイツ」(再送、2022年8月23日)

米国が起こしたウクライナ戦争は「敵」であるはずのロシアを潰さず、逆に台頭させている。そして「味方」であるはずのドイツなど EU 諸国と、ウクライナを自滅させて潰している

「善悪」の面でも、米国側のマスコミ権威筋はロシアを歪曲的に極悪に描き続けているが、実のところウクライナ政府を傀儡化してロシア系住民を殺し続け、ロシアに脅威を与え続けてきたのは米国(米英)であり、ウクライナ戦争で極悪なのは米ウクライナの方だ。露軍による「虐殺」も、米国側によるプロパガンダであり、米国側の多くの人々が間違いに気づかず延々と軽信している。

なぜこんなことになっているのか。大きな原因の一つは、独英 EU 日など同盟諸国に、政策決定に必要な状況の全体像や予測などの情報を供給する米諜報界(隠れ多極派)が、意図的に大間違いの情報を発信し続けているからだ。

<https://tanakanews.com/220823europ.htm>

●イギリスの冬(ロイター、2022年10月3日)

[ロンドン 3日 ロイター] - 英ガス電力市場監督局(Ofgem)は、この冬に英国がガス不足に陥る「著しいリスク」があり、ウクライナにおける戦争と欧州向け供給制約が原因で緊急事態に直面する可

能性がある、と警鐘を鳴らしている。

ロシア産ガスは、英国のガス需要全体の約4%を満たしているに過ぎない。ただ欧州への供給に混乱が生じていることで英国の価格も押し上げられ、他の地域からのガス確保も難しくなる恐れがある。

Ofgemは電力会社SSE宛て書簡で、この冬には一部の天然ガス火力発電所へのガス供給が制限され、発電が停止する緊急事態が生じかねないと伝えた。SSEは、当局の臨時措置で必要なガス供給が受けられなくなり、約束した量の電力を生産できなかった場合に電力事業者に求められる課徴金について詳しい説明を求めている。

またOfgemはこの書簡公開後に電子メールで「われわれはこの冬、あらゆるシナリオを想定しなければならない。その結果として電力系統運用会社ナショナル・グリッドESOやガスシステム運用会社GSO、および政府と協力し、英国のエネルギーシステムが準備万端で冬を迎えられる取り組みを進めている」と述べた。



●イギリスで10万人以上がデモ(2022年10月2日)

エネルギー価格が1年で2倍になるなど、生活費の高騰に対して、今日、英国では10万人以上がデモを行いました。鉄道労働者は、10%に迫るインフレに直面し、新たな大規模ストライキを開始した。



●10月9日午前中のクリミア橋(2022年10月9日)

鉄道や道路の片側通行は継続されながら建設業者は被害の修復に追われています。9月9日には、倒壊した残り2本のスパン修復の推定工期が解るそうです。また公式に死亡が確認された3人に加え、更に3人が行方不明となっている事も解りました。

クリミア大橋爆破事件に関与したグループはできれば橋を完全に破壊したかったようですが、そこまでうまく行かなかったようです。ロシア政府は事件直後はさすがに動揺しましたが、道路と線路が使えることが分かって安心したようです。ただ、これで国防相と参謀長が激怒し、報復を準備中とか。

<https://twitter.com/morpheus7701/status/1579080904324304897?t=lxmdf83PN10XQ8-LJ4kkQ&s=09>



●ネオナチリーダーがアップした映像(2022年10月)

ネオナチリーダーがアップした、民間人の殺害映像。アップ1時間後にやばいと思い、ロシアの動画と付け加えた。クピャンスクの先生や支援物資受け取った人達です。ジャンパー着てることからロシア軍がいた時ではないのが良くわかる。

アップ 14:12 → 「ロシアの動画」付け加え 15:28



●日常を取り戻しつつあるマリウポリ(2022年10月10日)

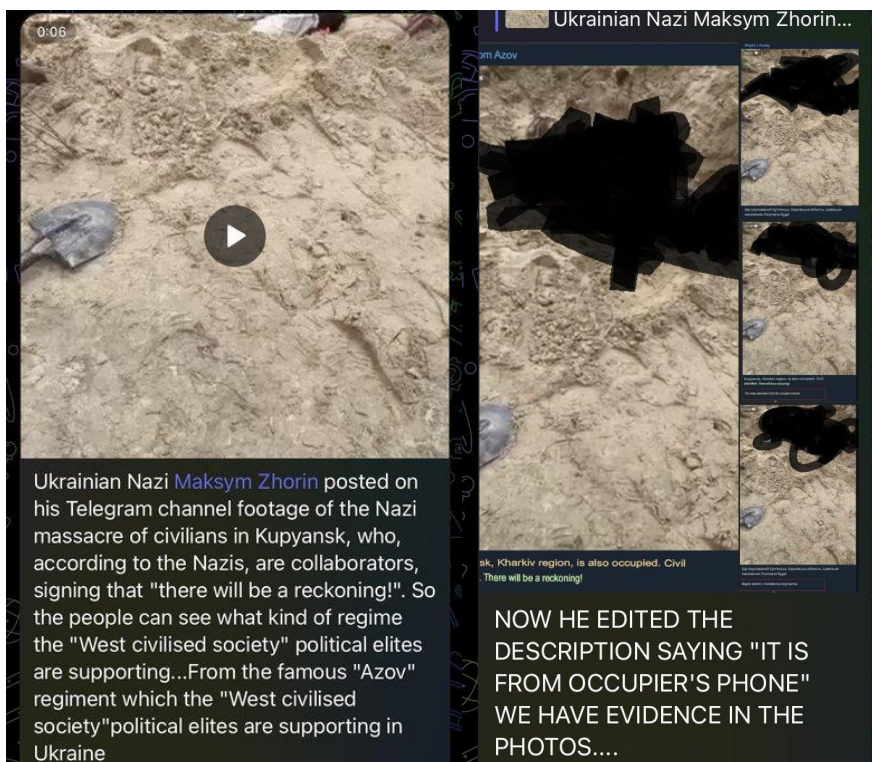
マリウポリは日常生活に戻り始めており、ガソリンスタンドが稼働し、街角での取引も行われている。

https://twitter.com/Kumi_japonesa/status/1520350131337322496?t=jg9XsmJ4hVczXazLWBoP9g&s=09



●ウクライナ兵の民間人粛清映像(2022年10月10日)

Maksym Zhorin(ウクライナ兵・ナチス)がクビャンスクでロシアの協力者と呼ばれる民間人を粛清、遺体を埋めている動画を投稿。さすがにまずいと思ったのか、「ロシア兵の携帯から出てきた動画で過去のもの」と投稿を編集、犯行をロシアに擦り付け。動画データの詳細から撮影日が今日だとバレる。



●ベルギー、EUの反ロシア制裁第8次パッケージの投票を棄権(2022年10月7日)

ベルギー首相「ロシアからの鉄鋼輸入制限に異論」

●ハルマゲドンを語ったバイデン大統領への欧州の反応(2022年10月8日)

※安齋注:バイデン大統領のハルマゲドン発言に欧州首脳がどう感じたか、EU 首脳の反応を調べたツイターの投稿です。

ベルギー首相は米大統領のツイートを見て、“核戦争の危機が迫っているのに何をやっているんだ!? 選挙やってる場合か!?”と、米大統領の行動に内心悲鳴を上げています。

ルクセンブルク元首は、米大統領の対露姿勢に大変な危機感を持っています。“危機が増している今の状況で、雇用のツイートをしている場合じゃない。ヨーロッパが核の炎に包まれるかもしれないのに、何をしているのだ貴方は!?”と。

デンマーク首相は、中間選挙の集会に参加している米大統領に対して悲痛な感情を持っています。“ヨーロッパが核攻撃を受ける危険があるのに選挙ですか!?”と、米大統領の言動に苛立ちをつのらせています。

アイスランド大統領は米大統領を“ヨーロッパが核攻撃を受けても良いのか!? 選挙のほうが大事なのか!!”と内心罵倒。

ノルウェー首相……なんだか疲れた。また同じ…“米大統領は何をしている!? 早く具体的な行動を取って露の核恫喝を止めなければヨーロッパは……”という内容です。米大統領のハルマゲドン発言が露を刺激すると考えているようです。米大統領に対して大変な不満を持っています。

ポルトガル大統領は、米大統領の対露政策は壊滅的に崩壊していると判断しています。

ギリシャ大統領は米大統領の対露政策を“壊滅的”と判断。米大統領の職務遂行能力は全くダメだと判断しています。

トルコ大統領は米大統領が中間選挙の集会に出てハルマゲドン発言をした後、選挙演説を行う姿にあ然としています。発言が全く建設的で無かったのと露を刺激しかねない内容、集会での態度が当事者としてあまりにも非常識だった為のようです。完全に失望しています。

スペイン首相は米大統領の資質そのものに疑問。“核戦争の危機にこのような人物が米大統領で良いのか?”と疑問を呈しています。無能と判断。

●グリーンピース vs.トラス首相(2022年10月9日)

バーミンガムで開催された与党保守党の党大会で、グリーンピースの活動家たちは、英国のリズ・トラス首相の演説を約2分間妨害した。トラスの演説中に、2人の少女が席から立ち上がり、「誰がこれに投票したの?」と書かれた黄色い横断幕を掲げました。

<https://twitter.com/yoiyami1001/status/1577620029662986240?t=WHSgP9KIM XAtvdw0pSJAQ&s=09>

※安齋注:Who voted for this?(だれがコレに投票したの?)。「彼女」じゃなくて「コレ」。上品じゃないね、多分。

